

各位

会社名 アマノ株式会社
代表者名 代表取締役社長 山崎 学
(コード番号 6436 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員
経営企画本部長 室井 清孝
(TEL: 045-439-1591)

2027年3月期第2四半期（中間期）および通期業績予想の修正
に関するお知らせ

2026年4月27日に公表しておりました連結業績予想および個別業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

2027年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想数値の修正（2026年4月1日～2026年9月30日）

	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	親会社株主に帰属 する中間純利益 百万円	1株当たり 中間純利益 円 銭
前回発表予想(A)	86,400	10,200	10,900	7,400	106.88
今回修正予想(B)	85,000	7,500	8,300	5,000	72.21
増減額(B-A)	△1,400	△2,700	△2,600	△2,400	
増減率(%)	△1.6	△26.5	△23.9	△32.4	
(ご参考) 前年同期実績 (2026年3月期中間期)	83,928	9,686	10,481	6,677	94.46

2027年3月期連結業績予想数値の修正（2026年4月1日～2027年3月31日）

	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	親会社株主に帰属 する当期純利益 百万円	1株当たり 当期純利益 円 銭
前回発表予想(A)	184,000	24,000	25,600	17,600	254.38
今回修正予想(B)	184,000	20,000	21,500	14,500	209.58
増減額(B-A)	0	△4,000	△4,100	△3,100	
増減率(%)	0.0	△16.7	△16.0	△17.6	
(ご参考) 前期実績 (2026年3月期)	176,467	22,551	24,358	20,146	286.34

2. 個別業績予想の修正について

2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期）個別業績予想数値の修正（2026 年 4 月 1 日～2026 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1 株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	36,800	5,300	8,900	6,700	96.77
今回修正予想(B)	34,000	3,100	6,700	4,900	70.77
増減額(B-A)	△2,800	△2,200	△2,200	△1,800	
増減率(%)	△7.6	△41.5	△24.7	△26.9	
（ご参考）前年同期実績 （2026 年 3 月期中間期）	36,125	5,229	8,807	6,428	90.93

2027 年 3 月期個別業績予想数値の修正（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	80,500	13,600	18,300	13,700	198.02
今回修正予想(B)	78,000	10,000	14,500	10,500	151.76
増減額(B-A)	△2,500	△3,600	△3,800	△3,200	
増減率(%)	△3.1	△26.5	△20.8	△23.4	
（ご参考）前期実績 （2026 年 3 月期）	76,689	12,912	17,695	14,393	204.58

3. 修正の理由

当中間連結会計期間においては、国内グループ会社が堅調に推移した一方、アマノ単体では、情報システムにおいて、前期の Windows 10 サポート終了に伴う更新需要の剥落に加え、2025 年 12 月にリリースした新製品「TimePro-eX」が中堅・大企業を主な対象としていることから、商談開始から売上計上までのリードタイムが長期化する傾向にあり、新製品の売上寄与が当初の想定を下回りました。また、製品リリースに伴うソフトウェア償却費が増加したことから、収益性は前年同期の水準には届きませんでした。パーキングシステムでは、カメラ式駐車場やキャッシュレス決済などの新商材の拡販が本格化するには至っておらず、環境システムでは、受注残の売上計上が下期に偏重しています。加えて、海外グループ会社についても、北米およびアジア地域の業績が低調に推移していることから、売上高および利益が当初予想を下回る見込みとなりました。

通期業績につきましては、国内グループ会社の堅調な推移に加え、アマノ単体のパーキングシステムおよび環境システムにおける受注残の着実な売上計上等を見込むものの、収益の柱であるアマノ単体の情報システムの業績回復には時間が掛かることから、中間期までの業績進捗の遅れを当期中に補うことは困難と判断し、連結業績予想を修正するものです。

なお、情報システムでは、AI 機能を搭載した新製品に係る商談が徐々に進展しており、パーキングシステムにおいても、新商材の販売拡大に向けた取り組みを進めています。これらの成長施策を着実に推進することで、来期以降の利益成長基調への回帰を目指してまいります。

(注) 業績予想に関する留意事項

本資料の業績予想の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後、様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上